美瑛のカラマツを利用する
～細かな仕様に応える梱包材，そして建築材へ～

有限会社滝田木材　代表取締役(びえいからまつ協同組合　代表理事)　瀧　田　勝　彦

■はじめに

当社は昭和55年（1980年）に先代が設立し，40年間，カラマツ梱包材中心の生産を続けてきました。近年は，集成材用ラミナも生産するようになっています。2019年，これまでの製材工場は残したまま自動化を進めた製材工場を新設し，同年11月から稼働を始めています。コロナウィルスの影響は当社も大きく受けていますが，ここでは，当社の原木入手から製品出荷までの基本的な概要および当社が関係しているびえいからまつ協同組合（以下，協同組合）について説明します。

■原木について

当社ではカラマツとトドマツを扱っています。ここ数年，トドマツの原木価格が下がる傾向にあって，トドマツが増えていますが，まだまだカラマツが多くを占めています。

道内のカラマツの強度についてはいろいろ調べ，上川管内のカラマツは強度に優れていることを把握しています。そのため，当社で使用するカラマツはほぼ全量が上川管内産で，中でも美瑛町森林組合，旭川市森林組合からの原木が多くを占めています。一部，他地域の原木を受け入れることもありますが，それらは集成材用ラミナには用いず，全て梱包材としています。

原木は，長さ2.2，2.4，2.5，2.7，2.8，3.0，3.3，3.6，4.0mをストックしています。さらに，5mや6.5mといった長材を伐ってもらうこともあります。長さ4m以上の長尺原木を仕入れるのは，トラック荷台の側板や床板の注文があるからです。

原木は山土場での仕分けはせずに径級込みで購入しています。購入後，当社の土場で，長さ別，径級別に仕分けし，2cm括約で「はい」を作っています（**写真1**）。長さ，径ともに細かく分けているので「はい」の数も多くなりますが，専門のオペレーターがグラップル1台で行えています。

40cm上の大径材も全て受け入れています。そうしないと山が困りますから。山とのしっかりとした信頼関係があるので，このような仕入れ関係が成り立っています。

まれにスプルースの長さ12m（径30cm上）を仕入れることもあります。ここまで長尺の原木は，カラマツ，トドマツでは入手できません。特に長尺材はカラマツではねじれて使えないのではないかと考えています。クリーンラーチで5m，6mの原木が取れるようになったら，もしかするとスプルースの代わりになるかもしれません。ただ，やはりカラマツなので，今のところ，ねじれ，割れに対する不安は拭えません。

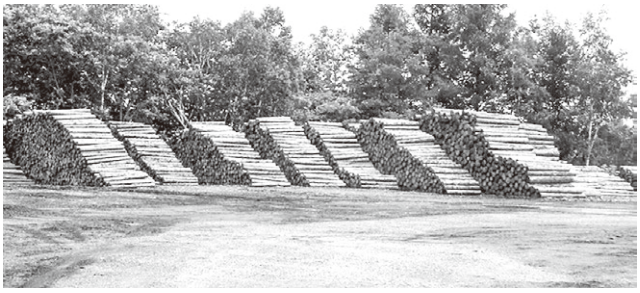

写真1　長さ，径級ごとに仕分けられた原木

■工場について

この地域は人材の確保が難しいので，設備更新による省力化と，併せて作業環境の改善を図ることにしました。

新しい製材工場はコーエキ(株)（旭川市）に協力してもらい，ノーマンツインバンドソー，ツインオートテーブル，自動積み込み機などを導入して，作業の自動化を図っています（**写真2**）。その結果，土曜日の休みを増やしても生産量を従来以上に上げることができています。工場の暖房もきちんとしています。ちなみに，当社の工場職員は20歳代から50歳代までで，他社に比べて年齢が若いことが自慢です。

新工場での生産を始めた2019年11月からこの春までの平均では，概ね1500m^3/月の原木を製材しています。

大径カラマツの外側からは強度の高いラミナがとれることは知っています。しかし，工場新設に当たっては生産性の高い工場とすることを最重視したので，工

程が増えて手間のかかる高強度ラミナをとるラインは導入しませんでした。なお，集成材工場から強度の高いラミナを挽いて欲しいと依頼されることはあります。しかし，心材部の製材も引き取ってもらわなくては困るし，強度が高くても価格アップにはつながっていかないのが実情です。

新工場では長さ4m以内，末口径40cm以内の原木を挽き，5m，6mの長材や40cm以上の大径材は旧工場で挽きます。長材を製材できるところが少なくなってきたのか，当社に依頼が来ることがあります。最近では，様似から原木を持ってきて当社で挽いて浦幌に運んだり，旭川郊外に建てられた豚舎用の6m材を挽いたりしました。このような特注品は値段が比較的良く，当社の特徴としてアピールできるのですが，単発の注文で終わり，継続する仕事につながっていかないのが悩ましいところです。

写真2　自動化を進めた新製材工場

■製品について

当社の製品は梱包材が8割，残り2割がラミナで，量は多くありませんが角材を製材することもあります。角材は協同組合で乾燥してから出荷しています。梱包材は本州に，ラミナは北海道と岩手に出荷しています。岩手へのラミナ出荷量はさほど多くはありません。

梱包材は基本的に全て受注生産になります。注文主によって寸法が細かく異なるので在庫は持ちません（**写真3**）。受注後，2週間で納品することを目標としており，時には1週間で納品することもあります。当社の場合，カラマツ，トドマツ梱包材の価格は同じに設定しています。以前はトドマツの方が高かったのですが，カラマツ原木が不足した時にトドマツ梱包材をカラマツと同じ価格で出荷した企業があり，それ以降，同価格が定着したのだろうと思います。

本州のお客さんはカラマツパレットを使用していたためか，梱包材もカラマツになじんでいるように感じます。ただ，梱包材としての強度はトドマツでも十分に持っていますし，カラマツよりも釘が打ちやすい，という評価も聞きます。

写真3　出荷を待つ長さ，厚さが異なる多種類の梱包材

■びえいからまつ協同組合について

2010年，カラマツを使った別荘や小型のキット住宅の製造・供給を目的として，美瑛町内の木材加工，建築・土木，鉄骨加工，建築設備の企業が組んで協同組合を設立しました。続いて，九州で使用していた木材加工機械を譲り受ける機会があり，協同組合の工場に導入しました。当初，木材加工の分野に進出することに迷いもありましたが，長年のつき合いがある清水組さん（美瑛町内の建築・土木業者）の後押しもあって決断しました。

当社でカラマツ，トドマツのラミナを製材し，乾燥，集成加工は協同組合が行います。協同組合が使用しているカラマツ，トドマツは全て当社が納めています。協同組合は，5軸制御CNC加工機，集成材用プレス，モルダーをはじめとする汎用木材加工機械，人工乾燥装置などを備え，カーテンウォールや大型ドアなど，けっこう面白いことをやっています。これからも，しっかりつながりながらやっていきたいですね。

（本稿は有限会社滝田木材・瀧田社長のご説明を取りまとめたものです。また，原木流通に関する取材については道総研林産試験場・酒井主査の協力を得ました。お二人に深く感謝いたします。　編集部）